

第8章 関連文化財群

1 関連文化財群に関する事項

1-1 関連文化財群の目的

本計画においては、歴史文化遺産の総合的・一体的な保存と活用に向けて、「関連文化財群」を設定します。

関連文化財群	有形・無形、指定・未指定にかかわらず様々な文化財を歴史文化に基づく関連性によって一定のまとまりとして捉えたものです。一体的に扱うことで、未指定文化財についても構成要素として価値づけが必要となり、また、相互に結び付いた文化財の多面的な価値・魅力の発見につながります。
--------	--

歴史文化の特性に基づき、一体的なまとまりを設定することによって、域内に散在している歴史文化遺産を俯瞰した保存と活用のプランニングが可能になります。歴史的・文化的・地域的な関連性や共通のテーマを持つまとまりとして捉えた関連文化財群を設定して、歴史文化遺産の総合的・一体的な保存・活用につなげます。

1-2 関連文化財群の設定の考え方

関連文化財群の設定については、前項の目的を達成するため、単に特性をまとめるだけでなく、関連文化財群ごとの課題を検討し、解決のための方針・措置を立てました。措置については、関連文化財群の運用にあたって重点的に取り組むものを具体的に記述しました。

なお、今後の歴史文化遺産の把握調査の進展や、事業の進捗状況に応じて、関連文化財群及び構成文化財の増減や措置の追加等も検討していきます。

1-3 関連文化財群とその課題・方針・措置

設定した関連文化財群について、以下の一覧表にまとめました。関連文化財群ごとに、目的、ストーリー、構成文化財一覧、構成文化財の分布図を記載し、各関連文化財群を運用していく上での課題と、その解決に向けた方針・措置を示します。

2 関連文化財群に関する課題・方針・措置

関連文化財群 1 長岡の縄文文化 ～自然とともに歩む暮らしと集落～

1. 目的

長岡における縄文文化や人々の暮らしをわかりやすく伝えるため、企画展や教育活動を展開し、市民の関心と理解を深める取り組みを推進します。

2. 概要

長岡は新潟県有数の縄文遺跡の宝庫です。それは豪雪がもたらす豊かな水や森が多種多様な動植物を育んだからにほかなりません。およそ8千年前に大きな環境変化に見舞われ、日本海側では雪が多く降るようになりました。厳しくも豊かな自然の恵みをうけて、縄文人は独特の感性を育みながら、数千年という長い時間軸の中で暮らしてきました。豪雪の長岡はこの頃にはじまり、そこで培われた暮らしの知恵は、後世にも引き継がれていきました。

3. ストーリー

日本列島には、人々が暮らした痕跡が数多く残されています。長岡市で確認できる人々の活動は、約3万年前の旧石器時代に遡ります。当時の人々は食料となる動物を追って広範囲に移動しながら一時的な活動拠点を設け、狩猟を中心に漁労や採集で暮らしていました。約1万6千年前、信濃川と魚野川の合流点に営まれた荒屋遺跡は、槍先に装着する細石刃の製作や骨角器・皮製品の製作が盛んに行われ、遺跡の立地状況から、サケなどの漁労も行われていたと推測されています。

約1万5千年前に長い氷河期が終わり気候は温暖化へと向かいました。約8千年前には日本海に湿潤な対馬暖流が恒常的に流入し、冬の日本海側では積雪が多くなりました。豪雪の長岡はこの頃に始まったと言えます。ブナやクリ・コナラなどの落葉広葉樹が広がる森ができ、シカやイノシシなどの小型動物の住処となりました。また、雪解け水とともに森の養分を含んだ川や海には、サケ・マスやアジ・タイ・貝類など様々な魚介類が生息しました。縄文人はこの多様な生態系に支えられ、季節に応じた動植物の狩猟・採集による暮らしを送りました。また、煮炊きを使う「土器」の発明により、様々な食材の調理が可能となり、人口は増加しました。これにより安定的な生活が可能となり、馬高・三十稲場遺跡や藤橋遺跡など集団で住居を構えた集落が形成されました。

縄文時代の住居には、地面を掘りくぼめた竪穴住居や柱を立てて床を設けた高床住居があり、カヤなどの植物を屋根材として葺いていたと考えられます。中道遺跡では、火災にあったと思われる住居が発見され、石組の炉や土器、石皿とともに獣骨やトチノミが出土しました。また、大武遺跡ではクルミが入った貯蔵穴が発見され、根立遺跡でも多数出土しています。木の実には貴重な食料源の一つですが、渋みが強いのでそのまま食べることはできません。まず水に浸けて中の虫を駆除し、アクをとった後に炉の上に設けた火棚で乾燥させ、保存しながら、消費していたと考えられます。また、岩野原遺跡では、クッキー状炭化物が詰まった石皿が出土しており、クリやクルミなどを粉したものに、シカやイノシシなどの肉、魚、塩などを混ぜ、焼いて食べていたと考えられています。木の実のほか、ワラビなど山菜類のアク抜きや保存方法は山の暮らしの知恵として現在も受け継がれています。

縄文人は、日々の生活のなかで、様々な道具も製作していました。石器は鍬・ドリル・ナイフ・斧など様々な用途で製作されました。シカやイノシシなどの動物は、肉を食べるだけでなく、毛皮から防寒具や革製

品を作ったり、骨や角を加工して道具や装飾品を作るなど、余すところなく利用していました。大武遺跡では網漁の錘として使用された石錘が多数出土しており、周辺の海や川で盛んに漁労を行っていたようです。信濃川中流域の集落でも、晩秋になれば遡上するサケを捕獲したと思われます。特に川口地域では、サケ漁として網や簀を使用した様々な漁法が今に伝わっています。

土器づくりは縄文時代から始まりました。縄文時代中期の火焰型土器は、馬高遺跡をはじめ枋倉遺跡や徳昌寺遺跡・門の沢遺跡、北野丸山遺跡など山間部から日本海沿岸の丘陵付近まで広い範囲で確認されています。キザキザの突起や鶏のトサカのような形をした把手がつき、全体的に力強く、動きのある造形となっています。装飾性が高いため特別な儀式に使用されたように見えますが、表面にはススやオコゲが付着し、普段の生活用具として使用されました。完成までにかなりの手間と時間がかかったと想像され、機能性や効率性重視のデザインを好む現代人の感覚とは異なる長い時間軸と豊かな感性を縄文人は持っていたようです。また、一緒に出土する土偶や石棒、ヒスイ製の玉類など祭祀に関わる遺物は、自然への畏敬の念や子孫繁栄を願う縄文人の精神性を物語っているようです。

また、縄文時代では優れた木材加工技術やウルシを利用した漆工技術が既に存在していました。根立遺跡や大武遺跡では、精巧に加工した斧の柄や漆器、撚り紐に漆を塗った漆紐、ざる・籠に漆を塗った籃胎漆器、漆塗りの腕輪など、現代の木工・漆工技術と比べても遜色ない技術を縄文人は習得していたのです。

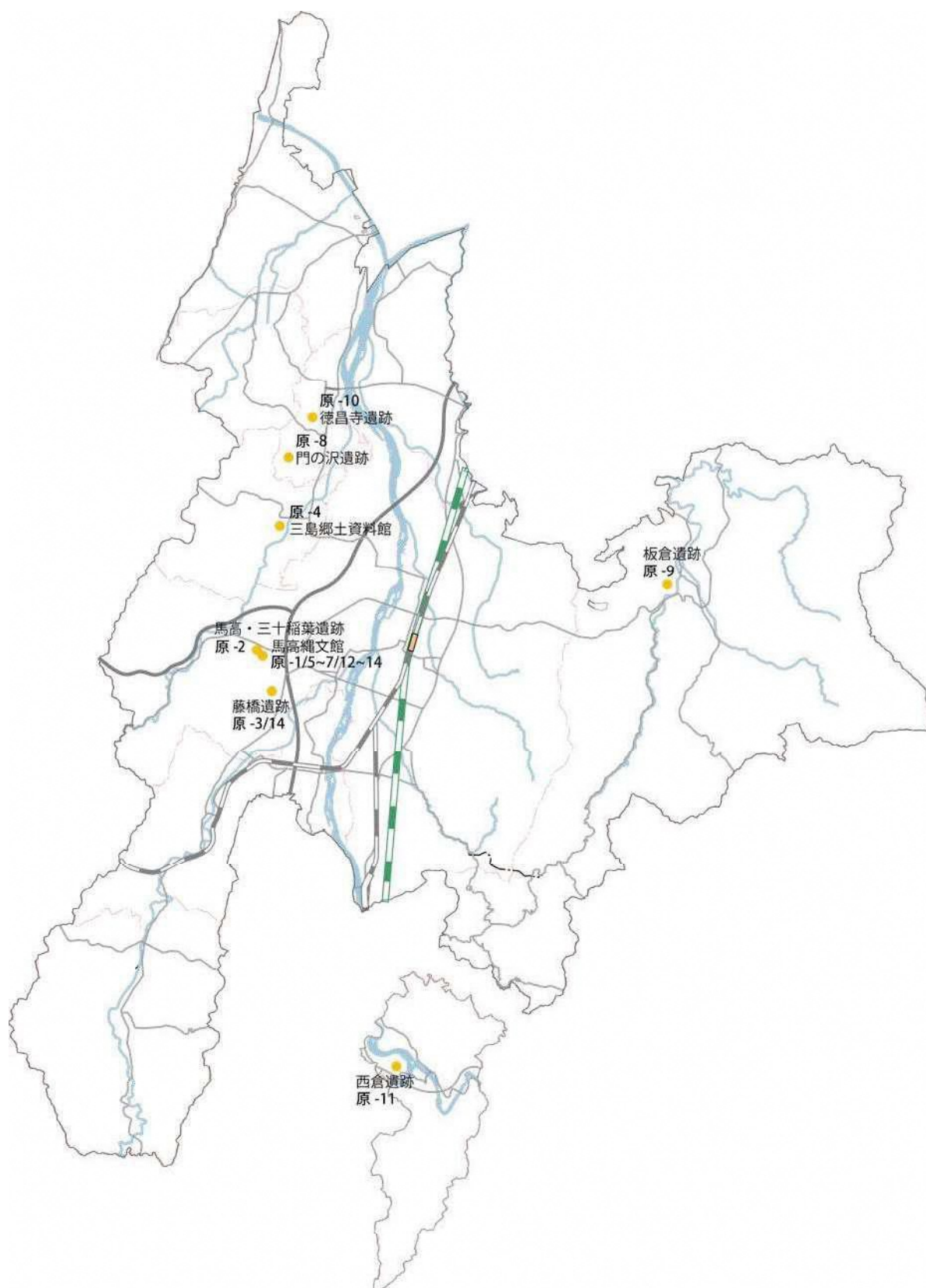
このように、長岡の縄文文化は厳しくも豊かな自然環境のもとで育まれ、そこで培われた暮らしの知恵は、後の世にも受け継がれていきました。



写真 8-1 円形竪穴住居



写真 8-2 火焰型土器、土偶



No.	類型	類型	指定状況	名称
1	有形文化財	考古資料	国指定	馬高遺跡出土品
2	記念物	遺跡	国指定	馬高・三十稻場遺跡
3	記念物	遺跡	国指定	藤橋遺跡
4	有形文化財	考古資料	市指定	土偶（舟岡遺跡出土）
5	有形文化財	考古資料	市指定	火焰型土器（門の沢遺跡出土）
6	有形文化財	考古資料	市指定	火焰型土器（栃倉遺跡）
7	有形文化財	考古資料	市指定	縄文土器（徳昌寺遺跡等出土）
8	記念物	遺跡	市指定	門の沢遺跡
9	記念物	遺跡	市指定	栃倉遺跡
10	記念物	遺跡	市指定	徳昌寺遺跡
11	記念物	遺跡	市指定	西倉遺跡
12	有形文化財	考古資料	未指定	岩野原遺跡出土品
13	有形文化財	考古資料	未指定	栃倉遺跡出土品
14	有形文化財	考古資料	未指定	藤橋遺跡出土品
15	有形文化財	考古資料	未指定	荒屋遺跡出土品（旧石器時代の細石刃石器群）
16	無形文化財	無形	未指定	鮭漁法
17	民俗文化財	無形の民俗	未指定	ゼンマイ取り

課題	方針	措置
関連文化財群のストーリーや構成文化財の周知が不足している。	Web上の情報を整備し、関連文化財群の価値を発信する。	文化財のデジタル化とオンライン展示
構成文化財が分散して所在するため、関連性の把握が難しい。	拠点施設を設け、関連文化財群のストーリーと構成文化財のガイダンスを行う。	馬高縄文館の拠点化（ガイダンス施設整備）
遺跡の教育活用が不足している。	学校教育の活用を推進する。	見学実習・体験学習の増加推進
遺跡の周知を目的とした活用が不足している。	遺跡を会場としたイベント開催を企画する。	遺跡のユニークベニュー企画
日本遺産制度の認定が十分に活かされていない。	関連市町村との連携を図った保存・活用を促進する。	関連市町村との共同事業開催
保存・活用に関わる後継者の育成が不足している。	高等教育機関の実習受入を促進する。	新潟県立歴史博物館・馬高縄文館における博物館実習の受付

2) 遺跡が語る古代の長岡 ～交通の要衝・古志郡の成立と人々の営み～

○目的

現在の長岡市域とほぼ重なる古代古志郡の歴史的遺産を活用することにより、長岡市民の一体感が得られるような活動・取り組みを推進します。

○概要

奈良・平安時代、現在の長岡市域は古志郡と呼ばれ、その中心となる古志郡衙（役所）は八幡林官衙遺跡周辺にありました。八幡林官衙遺跡は北陸道と信濃川に通じる島崎川沿いに位置し、頸城（上越市）の越後国府や信濃川・阿賀野川河口周辺（新潟市）の沼垂城、さらには海路を経て佐渡国（佐渡市）とも結ばれていました。郡内には各地に集落が営まれ、その周辺では農耕や須恵器・漆器・曲物製作など様々な手工業が行われ、交通・産業の中心地として後の長岡市へと通じる風土が形成されていきました。

○ストーリー

7世紀の末頃、長岡市の大部分は古志郡に属していました。大宝2（702）年、古志郡は頸城・魚沼・蒲原の3郡とともに越中国から越後国へと移管されました。和銅5（712）年、山形県庄内平野に出羽国が建国され、越後国の領域が確定しました。対蝦夷の前線基地である淳足柵が設置された大化3（647）年以来、越後国の領域が目まぐるしく変化するなか、和島地域を中心とした島崎川流域では、古志郡の役所跡である八幡林官衙遺跡や下ノ西遺跡が置かれました。

八幡林官衙遺跡の発掘調査では「沼垂城」「養老」と記された奈良時代の木簡や越後国府への出頭を命じた木簡など、越後国内の役所とのつながりをうかがわせる貴重な資料が発見されています。この遺跡は越後国府と淳足柵との中間地点に位置し、情勢が不安定な北方地域の城柵を後方支援する役割を担っていたと考えられます。また、「大家驛」と墨書された土器も出土しました。「大家驛」は北陸道の駅として『延喜式』に記載があり、遺跡周辺に北陸道が存在したことを示しています。都を起点とする北陸道の終点は佐渡国であり、島崎川下流に位置する寺泊から佐渡への航路があったと考えられています。寺泊地域には白鳳期に建立された横滝山廃寺が存在し、周辺の有力豪族が関わっていたと考えられます。このように島崎川流域は、古志郡の中心地であるとともに、水上・陸上交通の要衝として重要な役割を担っていました。

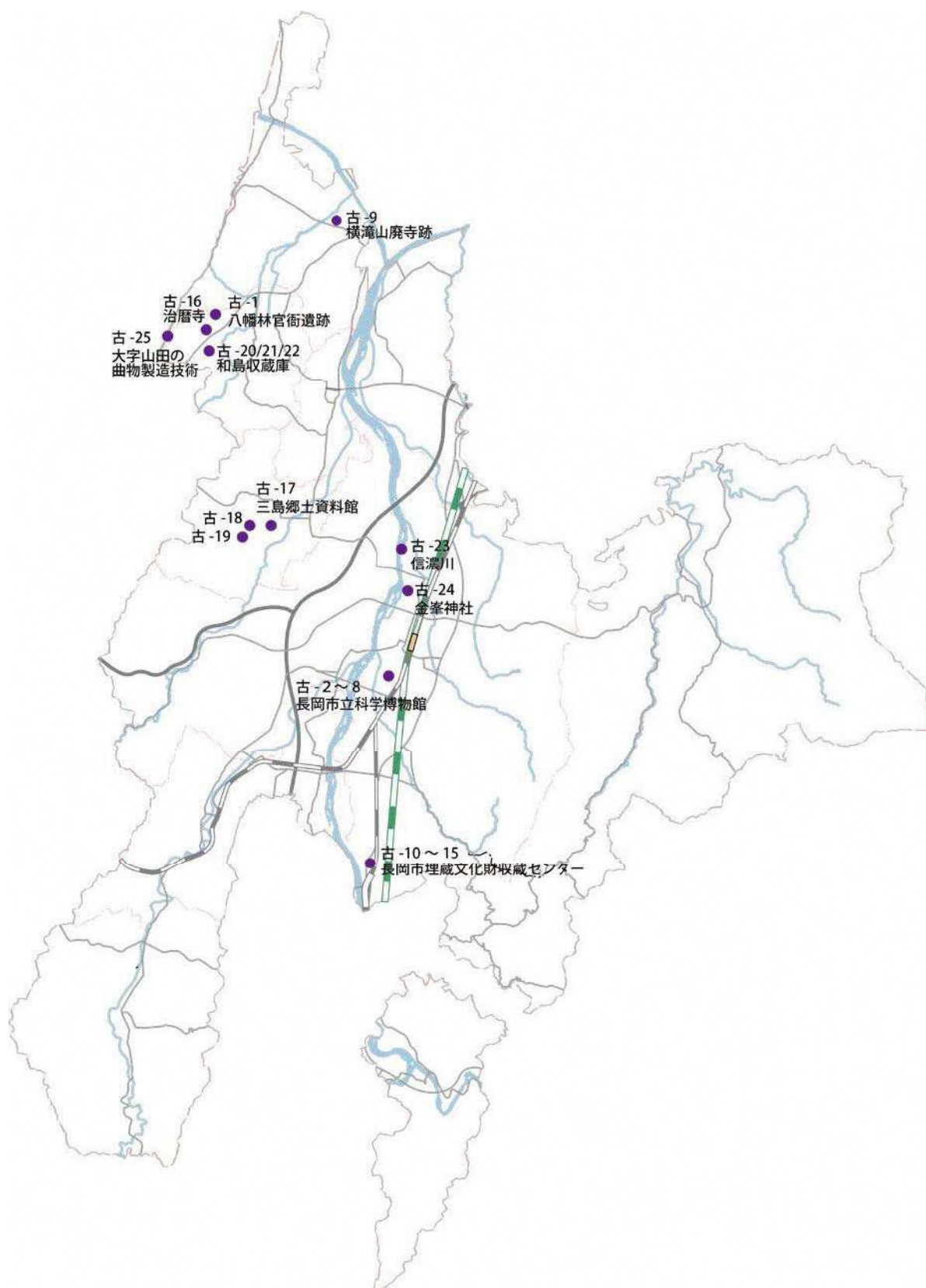
八幡林官衙遺跡や下ノ西遺跡には古志郡の郡司（大領）や越後国から派遣されて来た国司（掾）など、様々な階級の役人が常駐していました。そこでは、役人が身に着けた帯金具や太刀の外装具、硯などのほか、奈良三彩や漆器などの高級品が出土しています。また、税として様々な物品が集められ、国府や都へ輸送されました。なかでも鮭は越後国が中央へ納める特産品として規定されています。この鮭を輸送するために必要な人員や馬の数、経費などの内訳が書かれた木簡が八幡林官衙遺跡から出土しており、具体的な輸送方法を示すもの

として興味深い資料です。また、木製の農具やロクロ挽きの木器、曲物なども出土しており、様々なものづくりに人々が従事していたことがうかがえます。丘陵部では8世紀から9世紀前半の須恵器窯が多数確認されています。須恵器の生産には高度な技術をもった工人集団が従事し、大量に製作された須恵器は古志郡内の役所や集落など各地に供給されました。こうした古代のものづくりは、国や郡の主導のもとに始められました。それは焼物や製鉄、鍛冶、木工、漆工、紡織などあらゆる分野に及び、そこで培われた技術は後世へと受け継がれていきました。

古志郡内では河川の自然堤防上を中心に集落が営まれました。平安時代（9世紀）に営まれた浦反甫東遺跡は島崎川流域の中心的な集落遺跡で、廂のついた桁行5間の大型掘立柱建物とこれに付属する小規模な建物が河川沿いに複数並んだ状態で発見されました。「田庄」と記された墨書土器は、隣接する川東遺跡から出土した「泉田西庄」墨書土器とともに、農業経営の開発拠点である荘園が営まれた可能性を示しています。

続いて出現する10世紀の門新遺跡も島崎川のほとりに営まれた遺跡です。ここでは卓越した規模の主屋とこれに付属する倉庫や工房が発見されました。また、主屋の雨落ち溝から出土した漆紙文書には、「米」や「大刀」、「船」などの文字が見られ、土地開発や河川交通を利用した交易などを積極的に進めた人物の姿が浮かび上がってきます。これまで律令制度のもとで統治を行ってきた豪族に代わり、新たに台頭した開発領主と呼ばれる階層の人物であったと考えられます。

このように、長岡市では古代古志郡の役所や寺院、集落、須恵器窯などの遺跡が数多く発見されています。こうした古代の遺跡が現在の集落と重なっていることも少なくありません。古代から続く人々の営みは、現代の風景の中に残されているのです。



岡関連文化財群 遺跡が語る古代の長岡 ～交通の要衝・古志郡の成立と人々の営み～

番号	種別	指定区分	名称	所在地
1	遺跡	国指定	八幡林官衙遺跡	長岡市岡高・島崎
2	考古資料	県指定	八幡林官衙遺跡出土品	長岡市幸町2-1-1（長岡市立科学博物館）
3	考古資料	未指定	下ノ西遺跡出土品	長岡市幸町2-1-1（長岡市立科学博物館）・島崎5402（和島収蔵庫）
4	考古資料	県指定	門新遺跡出土品	長岡市幸町2-1-1（長岡市立科学博物館）・島崎5402（和島収蔵庫）
5	遺跡	県指定	横滝山廃寺跡	長岡市竹森
6	考古資料	市指定	横滝山廃寺跡出土品	長岡市中潟町286（長岡市埋蔵文化財収蔵センター）
9	考古資料	市指定	鷗尾	長岡市中潟町286（長岡市埋蔵文化財収蔵センター）
11	考古資料	市指定	ほとぎ（缶）	長岡市村田（治暦寺）
	考古資料	市指定	寺字墨書土師器	長岡市寺泊竹森
	考古資料	市指定	蓮弁鍔瓦	長岡市寺泊竹森
	考古資料	市指定	子持勾玉	長岡市寺泊竹森
12	工芸品	市指定	古鏡（四面） 氣比宮氣比神社蔵	長岡市上岩井1260-1（三島郷土資料館）
13	工芸品	市指定	古鏡（四面） 七社宮蔵	長岡市蓮花寺
14	考古資料	未指定	岩田遺跡出土品	長岡市中潟町286（長岡市埋蔵文化財収蔵センター）
15	考古資料	未指定	観音寺遺跡出土品	
16	遺跡	市指定	一の沢窯址	長岡市鳥越
17	考古資料	未指定	一の沢窯址出土品	長岡市中潟町286（長岡市埋蔵文化財収蔵センター）
18	考古資料	未指定	笹山窯跡出土品	長岡市幸町2-1-1（長岡市立科学博物館）
19	考古資料	未指定	羽黒窯跡出土品	長岡市幸町2-1-1（長岡市立科学博物館）
20	考古資料	未指定	間野窯跡出土品	長岡市幸町2-1-1（長岡市立科学博物館）
21	考古資料	未指定	岩野原窯跡出土品	長岡市中潟町286（長岡市埋蔵文化財収蔵センター）
22	考古資料	未指定	上条遺跡出土品	長岡市中潟町286（長岡市埋蔵文化財収蔵センター）
23	考古資料	未指定	浦反甫東遺跡出土品	長岡市島崎5402（和島収蔵庫）
24	考古資料	未指定	川東遺跡出土品	長岡市島崎5402（和島収蔵庫）
25	考古資料	未指定	吉沢遺跡出土品	長岡市島崎5402（和島収蔵庫）
26	考古資料	未指定	大萱場古墳出土品	長岡市幸町2-1-1（長岡市立科学博物館）
27	無形の民俗	県指定	王神祭（鮭を供える儀式）	長岡市西藏王2丁目-6-19（金峯神社）
28	工芸技術	市指定	大字山田の曲物製造技術	長岡市寺泊山田
29	建造物	未指定	宇奈具志神社（延喜式内社の論社）	長岡市島崎4753

3) 雪国長岡の米づくり・酒づくり ～大地と水の恵み～

○目的

雪国長岡で育まれた米づくり・酒づくりを象徴する文化財を総合的・一体的に保存・活用し、地域コミュニティの活性化と新たな来訪者の増加を目指します。

○概要

長岡は新潟県有数の米どころであり、米と水を主原料とする日本酒の製造も盛んに行われています。それは、豊かな自然環境と歴史的背景によるものです。特に、日本有数の豪雪地帯であることから、清らかな雪解け水が豊富で、これが米づくりと酒づくりに欠かせない条件となっています。また、近世に商工業が発展し、交通網が整備されたことも、生産・流通を支える基盤となりました。度重なる洪水など自然災害を乗り越え、米づくり・酒づくりは時代とともに発展し、地域の生活、風俗慣習、食文化などと深く結びついています。

○ストーリー

長岡は新潟県有数の米の産地として知られ、米と水を主原料とする日本酒の製造も古くから盛んに行われています。そこには、長岡特有の豪雪が密接にかかわっています。

日本海から吹き付ける冬の冷たく湿った季節風は、越後山脈にぶつかり、雪雲が発達して雪を降らせます。長岡は山脈に近い内陸に位置するため、雪雲が停滞しやすく、山間部だけでなく平野部でも雪が多く積もります。降り積もった雪は清らかな雪解け水となり、この豊富な水によって良質な米と酒ができました。酒づくりは稲刈りが終わる秋から冬にかけて始まり、気温が上がり始める立春を過ぎたころに終わります。そして、山の残雪が解けると、人や動物の形に見える模様が山肌に見えるようになります。雪形とよばれるこの現象は苗代や種まきを始めるのによい時期とされ、長岡の人々は経験的にこのことを知っています。

長岡における稲作の歴史は、およそ2千年前の弥生時代に遡ります。水田跡は未発見ですが、水上遺跡の石包丁や横山遺跡の粃の圧痕がついた土器が発見されています。当時の水田は、自然堤防の背後に広がる後背湿地を利用したもので、灌漑施設も自然の流路に堰や溝などを設けた簡素なものでした。信濃川左岸の沖積地にある五千石遺跡では、古墳時代前期の住居内で管玉や玉砥石、鍛冶炉が発見され、鉄器を利用した玉作りや鍛造による工具の製作が行われていました。また、堰を伴う水路から、古墳時代後期の木製の鋤や鍬、玉類などが出土しました。水稻耕作とともに農耕に関わるマツリが行われていたようです。律令制度が整備された奈良時代には、稲作中心の財政基盤が整い、国の主導で稲作の推進や水田開発がおこなわれました。古志郡の役所跡である八幡林官衙遺跡や下ノ西遺跡では、鋤や鎌などの農具や稲の貸付け（公出拳）に関わる木簡など稲作に関わる資料が発見されています。

これ以後、江戸時代に至るまで米づくりは国の重要な財政基盤として位置づけられました。幕府や藩は、年貢徴収や農民支配のため、検地をくまなく実施しました。その結果を記録した検地帳が、現在も市内各地の集落に残されています。また、村の代表者として行政を

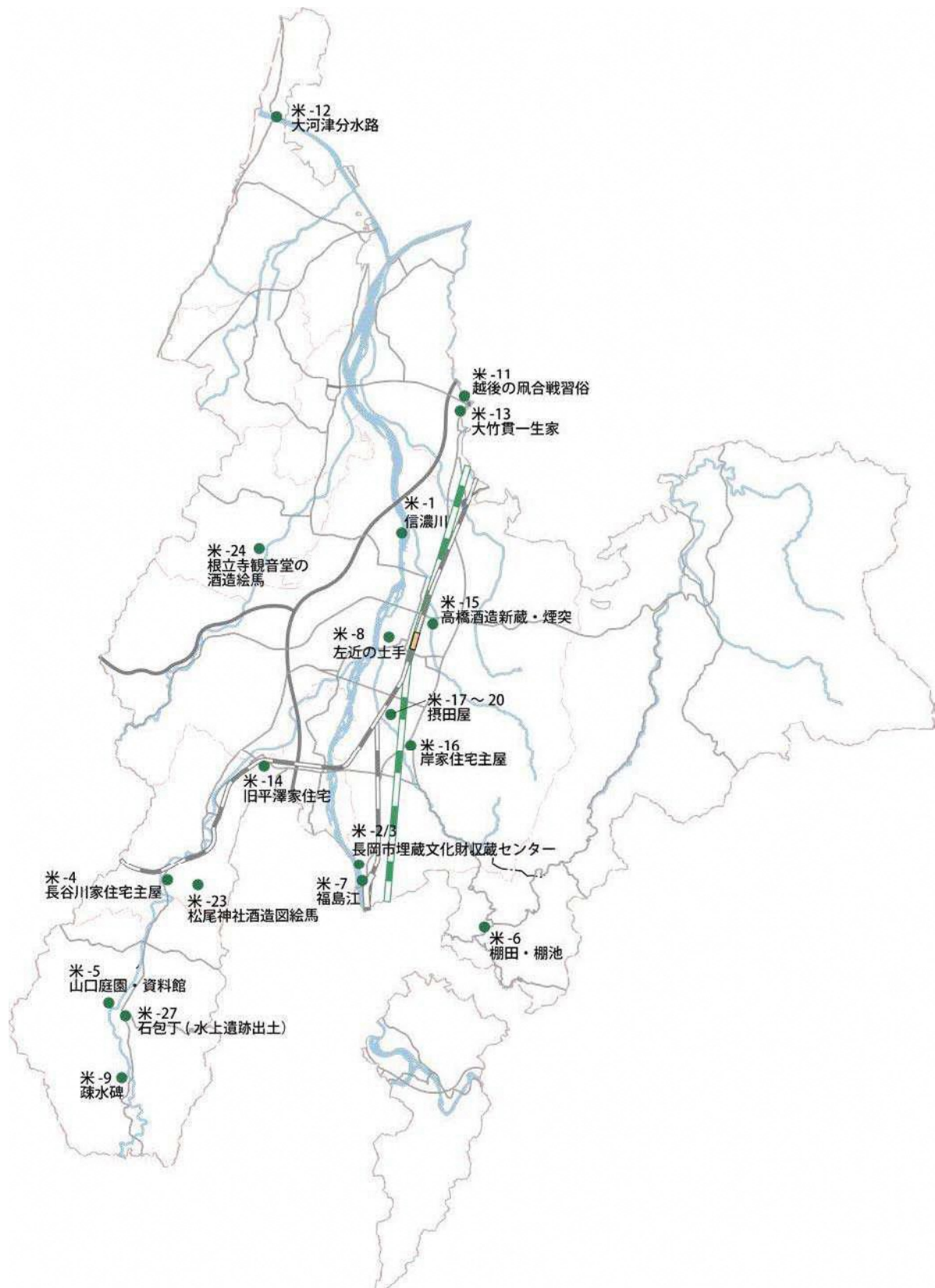
担った庄屋のなかには、多くの田畑や山林を所有する豪農となるものもありました。武士の出身といわれる長谷川家は、江戸時代の初めころ塚野山に居を構え、土地開発や治水事業などを通して山村地主としての地位を固めました。代々庄屋を勤め、幕末から明治にかけては近郷4か村の耕地や山林の7割を独占し、180町歩余の田から4000俵もの小作料をあげた豪農へと成長しました。

こうした豪農は、藩の奨励により積極的に新田開発を進め、稲作の発展に寄与しました。また、商工業の発展とともに街道や信濃川水運などの交通網も整備され、米の生産・流通を支える基盤となりました。しかし、信濃川に面した村々は、毎年のように水害に見舞われ、米の生産は不安定でした。そのため、農地を村全体で共有し、一定期間ごとに農地の割り当てを交換していく割地が行われました。そこには、村全体で損失や年貢の負担を共有しようとする共同体意識が窺われます。村の神社で行われる五穀豊穡や無病息災を願う年中行事も、村の一体感を醸成する行事として欠かせないものであり、村人にとっては楽しみのひとつでもありました。

江戸時代中期、本間屋数右衛門は水害対策として、信濃川の水を人工的に日本海へ排出させる大河津分水の計画を幕府へ請願しましたが、膨大な工事費がかかるため実現しませんでした。明治時代になると大竹貫一らの尽力により、明治40（1907）年に本格的な工事が始まり、大正11（1922）年に通水しました。これにより洪水被害は激減し、現在、越後平野には広大な水田地帯が広がっています。

長岡でとれる良質な米と豊富な湧き水をもとに、酒づくりも盛んに行われました。蔵元は、酒づくりの様子を描いた絵馬を寺社に奉納し、商売の成功を祈願しました。また、冠婚葬祭や村の年中行事、寺社の祭礼など、日々の生活に欠かせない存在でもありました。長岡には現在16の蔵元があり、歴史的建造物として残されているものも少なくありません。特に、摂田屋では、天領となった江戸時代以来、酒、味噌、醤油の醸造業が盛んになりました。その後、長岡空襲を免れたことから、明治・大正期の歴史的建造物が数多く残り、「醸造のまち」として現在も発酵文化が息づく地域となっています。

このように、長岡の米づくりと酒づくりは、厳しくも豊かな自然環境のもとで密接な関係を持ちながら発展し、またその一方で地域特有の風土や歴史を形成してきたのです。



長岡関連文化財群 雪国長岡の米づくり・酒づくり ～大地と水の恵み～

番号	種別	指定区分	名称	所在地
1	考古資料	未指定	尾立遺跡出土品	長岡市中潟町286（長岡市埋蔵文化財収蔵センター）
2	建造物	国指定	長谷川家住宅主屋	長岡市塚野山773番地1
3	名勝地	未指定	山口庭園	長岡市小国町横沢802番地
4	文化的景観	未指定	棚田・棚池	長岡市山古志
5	建造物	未指定	福島江	長岡市妙見町～中之島大口
6	建造物	未指定	左近の土手	長岡市左近
7	史跡	市指定	疎水碑	長岡市小国町森光741-6
8	無形の民俗	未指定	代掻き歌・田植歌・米搗歌	
9	無形の民俗	県指定	越後の風合戦習俗（中之島地域）	長岡市中之島
10	建造物	未指定	大河津分水路	長岡市寺泊地域・燕市大河津ほか
11	建造物	市指定	大竹貫一生家	長岡市中之島4
12	建造物	国指定	旧平澤家住宅（松嶺閣）	長岡市朝日字滝ノ下980番地1
13	建造物	国登録	高橋酒造新蔵・煙突	長岡市地蔵1-8-2
14	建造物	国登録	岸家住宅主屋	長岡市横枕町606
15	建造物	国登録	吉乃川酒造常倉	長岡市摂田屋4-2247
16	建造物	国登録	長谷川酒造主屋（事務所）	長岡市摂田屋2-1831-1
17	建造物	国登録	機那サフラン酒製造本舗 土蔵・主屋・離れ座敷・衣装蔵・調整蔵・醸造蔵・道具蔵・一号蔵・米蔵・シチレン蔵・石垣	長岡市摂田屋4丁目6-33
18	名勝地	未指定	機那サフラン酒製造本舗 庭園	長岡市摂田屋4丁目6-33
19	無形	国登録	伝統的酒造り	
20	無形の民俗	未指定	酒屋歌	長岡市寺泊野積・越路地域
21	有形の民俗	未指定	野鍛冶の製作道具	長岡市寺泊夏戸2829（寺泊民俗資料館）
22	有形の民俗	未指定	野積杜氏の酒造り道具	長岡市寺泊夏戸2829（寺泊民俗資料館）
23	有形の民俗	市指定	松尾神社酒造図絵馬	長岡市東谷山宿（松尾神社）
24	有形の民俗	市指定	根立寺観音堂の酒造絵馬	長岡市上岩井3201
25	無形	未指定	笹団子	
26	無形	未指定	醤油おこわ・醤油赤飯	
27	考古資料	市指定	石包丁（水上遺跡出土）	長岡市小国町新町185番地（小国民俗資料館）
28	考古資料	未指定	五千石遺跡出土品（木製農具）	長岡市中潟町286（長岡市埋蔵文化財収蔵センター）
29	考古資料	県指定	八幡林官衙遺跡出土品（鋤、鎌、大足など）	長岡市幸町2-1-1（長岡市立科学博物館）
30	考古資料	未指定	下ノ西遺跡出土品（第一号木簡）	長岡市幸町2-1-1（長岡市立科学博物館）
31	古文書	市指定	河村検地帳	長岡市長倉西町458-7（長岡市歴史文書館）
32	古文書	市指定	片桐文書	長岡市三島新保
33	古文書	市指定	赤谷村御検地帳	長岡市栃尾表町
34	古文書	市指定	寺泊町御用留 渡部組御用留等	長岡市寺泊吉（長岡市）
35	古文書	市指定	年友 五十嵐家文書	長岡市寺泊吉・寺泊支所
36	古文書	市指定	大和田 渡辺家文書	長岡市寺泊大和田
37	古文書	市指定	夏戸 小黒家文書	長岡市寺泊夏戸
38	古文書	市指定	大地 山田家文書	長岡市寺泊大地
39	古文書	市指定	木島 菅沼家文書	新潟市中央区女池南3丁目1-2（新潟県立文書館）
40	古文書	未指定	割地制度関係資料	
41	無形の民俗	市指定	池之島神楽	長岡市池之島
42	無形の民俗	市指定	中野東神楽	長岡市中野東
43	無形の民俗	市指定	末宝神楽	長岡市末宝
44	無形の民俗	市指定	灰島神楽	長岡市灰島新田
45	無形の民俗	市指定	菅沼神楽	長岡市菅沼
46	無形の民俗	市指定	法末神楽	長岡市小国町法末
47	無形の民俗	市指定	岩戸舞	長岡市律谷
48	無形の民俗	市指定	栃堀神楽舞	長岡市栃堀
49	無形の民俗	市指定	荷頃神楽舞	長岡市北荷頃
50	無形の民俗	市指定	菅畑神楽舞	長岡市菅畑
51	無形の民俗	市指定	吉津神楽	長岡市与板町吉津
52	無形の民俗	市指定	弓踊り	長岡市島崎
53	無形の民俗	市指定	中之島諏訪神社灯籠神事	長岡市中之島
54	無形の民俗	市指定	中条日枝神社春秋祭禮御神輿神事	長岡市中之島中条
55	無形の民俗	市指定	諏訪神社春季大祭神輿渡御行列（大名行列）	長岡市栃尾表町
56	無形の民俗	未指定	雪形（鋸山・守門岳など）	

4) 長岡開府の歩みと復興 ～先人たちの営みと人材育成～

○目的

江戸時代初期の開府以来、長岡の発展を支えてきた先人たちの歩みを後世に受け継いでいくため、関連文化財群や歴史の魅力を広く発信する取り組みを展開します。

○概要

江戸時代のはじめ、藩主の牧野氏が長岡城を完成させて以来、政治・経済・文化交流の場として発展し、歴代藩主は教育にも力を入れました。幕末の動乱では戊辰戦争の戦場となり、町は壊滅的な損害を受け困窮を極めますが、小林虎三郎は人材育成こそが復興への足掛かりになると、救援米の売却資金を使って教材などを用意し、国漢学校を開校しました。人材育成の大切さは「米百俵」の故事として現在も語り継がれ、多くの困難を乗り越える原動力となってきました。

○ストーリー

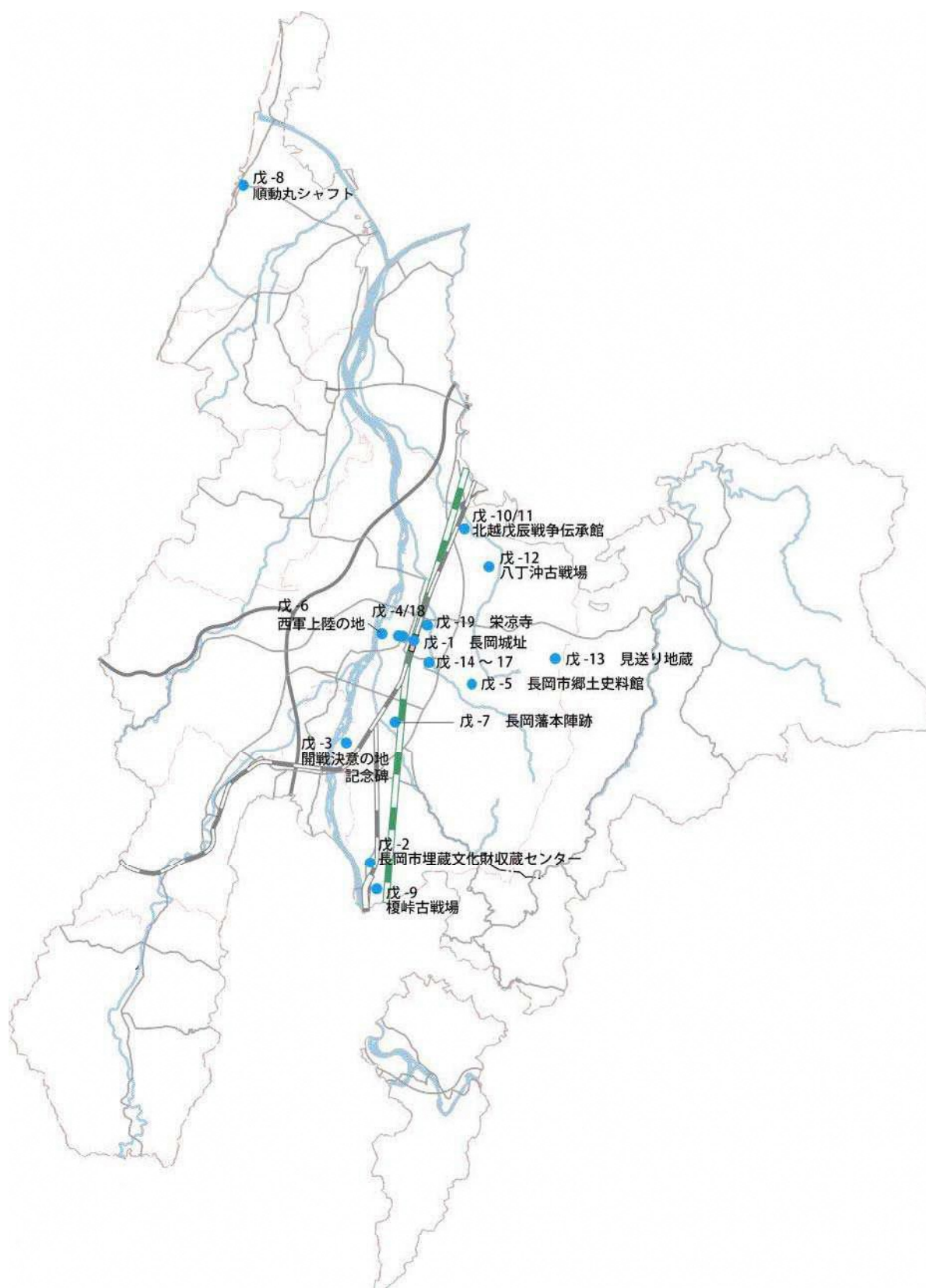
長岡城は江戸時代、現在の長岡駅周辺にありました。現在は長岡城跡として把握され、これまでの発掘調査では堀跡や井戸跡、陶磁器類や漆器、荷札などの遺構・遺物が発見され、かつて城下町が広がっていたこと物語っています。

長岡城の築城が始まったのは慶長10(1605)年、堀直奇の時です。その後、元和4(1618)年に堀氏に代わって牧野忠成が長岡に入り、長岡城築城を引き継ぎ完成させました。信濃川と栖吉川を取り込んで自然の外郭とし、幾重にも堀をめぐらした中心部に本丸と二の丸、三の丸が配置されていました。周囲には家臣団が住まう武家屋敷が置かれ、商人や職人が軒を連ねる町屋も形成されました。航路の整備によって江戸や大坂などの消費地と各地との間に商品の流通網が確立したのち、江戸時代中期には信濃川の水運を利用した商品の流通が活発となり、信濃川の船継ぎを行っていた長岡の商人は急速に成長しました。また、街道や水運で結ばれた与板では、大坂屋（三輪家）などの豪商が生まれました。

3代藩主牧野忠辰は藩の教育を盛んにすることに努め、藩士には日常生活に役立つ倫理や学問を奨励し、9代藩主牧野忠精は藩校崇徳館を開校し、将来の藩政を担う人材を育成しました。また、領内の開発に力を注いだ忠精は書画もたしなみ、日照りに慈雨をもたらすという雨龍を描いて豊作への祈りを表し、「雨龍書きの殿様」と呼ばれました。一方、庶民の間でも交通網の発達とともに、地域間の往来が活発となり、詩歌などを通じた文化の交流が盛んに行われました。特に、江戸時代後期の僧、良寛は晩年を和島地域で過ごし、寺泊・与板地域をはじめ、各地の文人らと交流を深めました。その時に書き残した書が数多く残されています。

崇徳館からは、幕末から明治時代にかけて活躍する多彩な人材が輩出されました。特に、河井継之助、小林虎三郎、三島億二郎の三人は長岡三傑と呼ばれています。慶応4(1868)年、戊辰戦争が始まり、河井継之助は、長岡藩家老上席、軍事総督として軍を率いました。

長岡城周辺や寺泊沖で新政府軍と激しい戦闘が行われた末、長岡城は落城し、町は壊滅的な被害を受けました。戦後、荒廃した長岡で藩士らは困窮し、支藩の三根山藩から救援米が送られました。小林虎三郎は、復興のためには人材育成が重要であると説き、その米を売却し国漢学校の運営資金に充てました。町の復興をめざす三島は国漢学校の拡充や長岡洋学校のほか、銀行・病院などの設立に尽力しました。こうした人材育成の理念は、現在も長岡の学校教育に受け継がれ、現在のまちづくりにも活かされています。



長岡関連文化財群 長岡開府の歩みと復興 ～先人たちの営みと人材育成～

番号	種別	指定区分	名称	所在地
1	遺跡	未指定	長岡城址	長岡市大手通1丁目ほか
2	考古資料	未指定	長岡城跡出土品	長岡市中潟町286（長岡市埋蔵文化財収蔵センター）
3	歴史資料	未指定	開戦決意の地記念碑（前島神社）	長岡市前島町226
4	工芸品	未指定	維新の暁鐘（西福寺）	長岡市渡里町3-21
5	歴史資料	未指定	河井継之助『塵壺』	長岡市学校町1丁目2-2（長岡市立中央図書館）
6	歴史資料	未指定	四斤山砲弾ほか	長岡市御山町80番地24（長岡市郷土史料館）
7	遺跡	未指定	西軍（新政府軍）上陸の地	長岡市中島1-10-17
8	遺跡	未指定	長岡藩本陣跡（光福寺）	長岡市摂田屋1-13-35
9	建造物	市指定	順動丸シャフト	長岡市寺泊町二ノ関
10	遺跡	未指定	榎峠古戦場	長岡市妙見町1753
11	遺跡	未指定	大黒古戦場	長岡市大黒町39-2（北越戊辰戦争伝承館）
12	遺跡	未指定	八丁沖古戦場	長岡市富島町79
13	有形民俗	市指定	見送り地藏	長岡市軽井沢区
14	古文書	市指定	明治初期における三島億二郎の日記	長岡市学校町1丁目2-2（長岡市立中央図書館）
15	古文書	市指定	明治初期における牧野忠毅の版籍奉還に関する太政官通達等	長岡市学校町1丁目2-2（長岡市立中央図書館）
16	古文書	市指定	明治初期における長岡藩御用方日記	長岡市学校町1丁目2-2（長岡市立中央図書館）
17	遺跡	未指定	国漢学校跡地	長岡市大手通2-3-10
18	遺跡	未指定	牧野家菩提寺・長岡藩士墓地（栄涼寺）	長岡市東神田3丁目5番6号
19	古文書	未指定	「越後表戦場ノづ（図）」ほか	長岡市大黒町39-2（北越戊辰戦争伝承館）
20	書跡・典籍	未指定	牧野忠精 「雨龍図」	長岡市幸町2-1-1（長岡市立科学博物館）ほか
21	書跡・典籍	市指定	長岡藩3代牧野忠辰書	長岡市学校町1丁目2-2（長岡市立中央図書館）
22	書跡・典籍	市指定	良寛遺墨	長岡市島崎3938（良寛の里美術館）
23	書跡・典籍	県指定	良寛遺墨	長岡市島崎
24	史跡	県指定	良寛終焉地	長岡市島崎
25	工芸品	市指定	良寛の「瓢水指」	長岡市与板町与板
26	書跡・典籍	市指定	良寛関係とその一族の「掛軸」	長岡市与板町与板
27	書跡・典籍	市指定	良寛関係とその一族の「風呂前屏風」	長岡市与板町与板
28	書跡・典籍	市指定	良寛遺墨 過去帳	長岡市寺泊片町
29	書跡・典籍	市指定	良寛遺墨 和歌一首	長岡市寺泊荒町
30	建造物	市指定	与板城大手門	長岡市与板町与板乙4356
31	建造物	市指定	与板城切手門	長岡市与板町与板
32	彫刻	市指定	大坂屋看板	長岡市与板町与板乙4356（長岡市与板歴史民俗資料館）
33	古文書	市指定	朱印状 （2代将軍から牧野忠成へ）	長岡市悠久町（蒼柴神社）